

平成29年第3回燕市議会定例会
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
9月 7日(木)	午前	1	大原 伊一 議員		○	
		2	山本 知克 議員		○	
	午後	3	白井 文雄 議員	○		
		4	藤井 秀人 議員		○	
8日(金)	午前	5	齋藤 信行 議員	○		
		6	小林 由明 議員		○	
	午後	7	堀 勝重 議員		○	
		8	埴 豊 議員		○	
		9	柳川 隆 議員		○	
11日(月)	午前	10	渡邊 雄三 議員		○	
		11	樋浦 恵美 議員		○	
	午後	12	大岩 勉 議員		○	
		13	山崎 雅男 議員		○	
		14	土田 昇 議員		○	
12日(火)	午前	15	宮路 敏裕 議員		○	
		16	長井由喜雄 議員		○	
	午後	17	タナカ・キン 議員		○	
		18	山崎 光男 議員		○	

平成29年第3回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	大原伊一 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 来年4月の市長選について	<p>①市民にとって大きな関心事でもある市長選挙が7カ月後の来年4月に近づいて来ている。市長には引き続き市政運営にあたってほしいという期待の声を多く聞けるが、市長はどうするつもりなのか。そろそろ次の市長選への態度を明らかにしてほしいが、考えを伺う。</p> <p>②一方で、選挙の洗礼を受けていない。また、選挙をしたくない市長との一部批判があるが、これらについて市長はどう受けとめているのか伺う。</p>
		2. 幼保民営化について	(1) 幼保民営化の議会・市民(保護者)に対する説明をどのように進め理解を得ようとしたのか伺う	<p>①平成23年3月に幼稚園・保育園適正配置実施計画に基づき市内幼稚園・保育園の民営化により「きららおひさまこども園」が誕生し大きな成果を上げていると聞いている。 当時議会の反対多数を押し切って民営化した認識は無いが、当局の見解について伺う。</p> <p>②幼稚園・保育園適正配置実施計画で説明のあった各地区数園の民営化方針についても反対多数の状況は無かったと思うが、当局の見解について伺う。</p> <p>③「きららおひさまこども園」は、3園を統合して民営化したのが、財政上の効果と民営化によって何が変わったのか、また、保護者の評価についても伺う。</p> <p>④「きららおひさまこども園」の職員採用について。</p> <p>⑤延長保育などの公立保育園との違いについて。</p>
		(2) 燕地区の民営化をめぐる混乱について	<p>①平成28年6月9日の議会全員協議会において、つぼみ保育園の民営化が提案され議会は、反対多数の状況が無かったと思うが、当局の見解について伺う。</p> <p>②某政党の市議会議員がキャッチコピーで、「市当局がさも議会の反対を押し切った民営化を進めた」というアンケート調査を行った。当局として事実関係を知っているのか。</p> <p>③保育園敷地内に入り込んでアンケートを配布や回収したり、園職員が協力したということは無かったのか。</p> <p>④燕市保育園整備事業者選定委員会に対し、第3回委員会直前に保護者から緊急要望書が提出された内容について。</p> <p>⑤応募法人名が何故保護者に知れ渡ったのか緊急要望書作成の経緯について。 何故多くの保護者は、応募法人名を知り得たのか。 緊急要望書作成に関わった保護者数の実態について。 緊急要望書がねじ曲げられた動きについて。</p>	
(3) 今議会に示された分水地区の統廃合によるこども園設置や今後の対応について	<p>①今回の後味の悪い結果を乗り越え、ますます厳しくなっていく財政状況を踏まえ、行財政改革の推進のためにも民間に出来るものは民間に委ねていく姿勢を堅持することを伺いたい。</p>			

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	山本知克 (一問一答方式)	1. 広報について	(1) 事業の内容や紹介を多くの市民に	<p>① 執行中の事業内容紹介を多くの市民に。 6月議会では広報紙への2次元コード掲載について質問し、事業内容や対象者を考慮して掲載するとの回答があり一部で実施されているが、版面率を考えるとまだ少ないように思える。 対象年齢や事業内容を検討し、「申し込みや問い合わせに2次元コード活用やURLの改行」を掲載している中で、婚活等の若者向けの情報掲載を整理し、広報紙をよく読まれる世代向けに情報を厚くしてはどうか。</p> <p>② 広報紙以外の周知について、ポスターやチラシにも2次元コードを掲載し、スマートフォン等の活用により詳細な情報へのアクセスと申し込みをできるようにしてはどうか。現在の発行状況や施設での掲示板の設置状況・屋外掲示板の活用状況について伺う。また、商業施設への掲示についてはどうか伺う。</p>
		2. 介護保険事業について	(1) 介護人材育成事業について	① 資格を持たずに介護事業所に就職した人のために、資格取得に関わる研修費の一部を補助する制度が「初任者研修・実務者研修・介護福祉士資格取得」だが、これまでの実績と来年度以降の継続について伺う。
		(2) 新しい総合事業について	<p>① 本年4月からの介護保険制度の改正により、総合事業制度がスタートしているが、4カ月を経た今どのように変わったのか。現行相当の事業「通所介護・訪問介護」、新制度利用での「通所介護・訪問介護」、A型の利用状況、B型の日常生活支援事業等の利用状況について伺う。また、今後年1回の認定調査後において、現行相当サービス受給者と新制度での受給者をどの程度見込むのか伺う。</p> <p>② 新制度では、「サービスB型はNPO、民間企業、ボランティア」など、地域の多様な主体を活用して高齢者を支援していく仕組みとなっている。場合によっては高齢者が支え手側に回ることもあるとされているが、今後の支援活動の担い手の育成をどのように考えているか伺う。</p> <p>③ 総合支援制度ではサービスを受ける前提として、25のチェック項目による判定を前提としている。新制度へ移行後の申込数と利用状況、制度の周知活動について伺う。 今後、包括支援センター見守り対象世帯、対象世帯外の高齢者へ新しい総合支援制度を知っていただくために、予防介護事業の普及も含めどのように周知活動を進めるのか伺う。</p>	
		3. イノベーション事業について	(1) 燕市のインターンシップ事業のPRについて	<p>① インターンシップのPRを考えると、インターンシップ調査報告書の中でも普及にはホームページの有効性について書かれている。対象年齢の世代は活字離れが進み、新聞を読まない若者が多くなり問題視されている。情報の収集もインターネットが大きく依存していることは周知のことで、対応について伺う。</p> <p>② 市としてもインターンシップ受け入れ推進モデル地域を目指すことから、情報を市民レベルで共有することも望まれるが、市民向けにローカルイノベーションを含め、他事業と関連性を持ったPRポスターやチラシ・ホームページの作成と広報紙での特集や、2次元コードの掲載は考えられないか伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	山本知克(一問一答方式)	3. イノベーション事業について	(1) 燕市のインターンシップ事業のPRについて	<p>③ インターンシップ受け入れに対して、インターンシップ調査報告書によると市内には中小企業も多く、受け入れは1社だけでは難しいとのことで、金属洋食器サプライチェーンプログラムなどの掲載があるが、今後どのように展開していくのか。</p> <p>④ インターンシップについて資料によると、感想や要望なども掲載し、フィードバックの重要性も記載されているが、単に記録ではなく写真や動画を交えた形のものには計画できないか。さらに、東京つばめいと事業、アイデアソン・ハッカソンやアイデアコンペ、工場の祭典と連携したお互いの事業の交流など、働くことの楽しさを伝えるために、今後も続く少子化の流れを踏まえ、人材確保の観点からもどのように事業展開を進めるのか伺う。</p>
		4. 生活困窮者自立支援事業について	(1) 生活困窮者自立支援事業について	<p>① 生活保護受給前の第2のセーフティネットとも呼ばれている制度で、さまざまな理由で生活が変わってしまう現実に向き合っていくには、窓口での相談時対応が重要になる。就労に向けての相談や経済的な苦境に立たされての相談であるから、より相談を受けやすい環境作りに努めていると思われるが、現在の対応状況やこれまでの主な相談内容について、また、「生活再建に向けた課題やアドバイス」を生かしたパンフレット作りについて考えを伺う。</p> <p>② 相談の中で多くの方が求められる就労支援について、周知活動や課題について伺う。</p>
3	白井文雄(一括質問一括答弁方式)	1. 企画財政(総務)行政について	(1) 部長の目標宣言について	<p>① 誰に対する宣言で、その目的は何を主眼として作られたのか。目標宣言には部下育成の記述がないがなぜか。アクセス数はどれくらいか。</p> <p>② 宣言時期と達成時期に整合性はあるのか。</p> <p>③ 宣言したことによる効果の立証と、達成状況等の検証は誰がいつ行うのか。</p>
		2. 教育行政について	(1) いじめ問題について	<p>① 学校でのいじめ認知件数と解消率はどれくらいか(小・中別に)。</p> <p>② 虐待の連鎖といじめの連鎖についての関連について。</p> <p>③ 学校内での連携は図れているか。PTAに対する情報共有はどうか。</p> <p>④ いじめの根絶についての教育委員会の考えは。</p> <p>⑤ いじめと妬みの関連性はどうか。他に対する優位性はいじめの根源となるのか。</p>
		3. 市民健康福祉行政について	(1) 吉田病院の改築における市の立ち位置について	<p>吉田病院の改築に伴う市の立ち位置について。</p> <p>① 現在の病院用地と建物面積はどれくらいの規模で構造はどうか。</p> <p>② 現建物の耐震診断を行った結果として、病院の耐震力としてのIS値はどれくらいで、コンクリートの中酸化や鉄筋の腐食はどうだったのか。</p> <p>③ 病院改築では新しいまちづくりとの表現も使われたが、現病院の跡地のまちづくりはどう考えているのか。</p> <p>④ 現行許可病床数の確保はどこで決まって、今後は増やすことは出来ないのか。</p> <p>⑤ 用地買収は市が率先して行うとの考えだが、県はどの立場で関わってくる予定か。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)	
4	藤井 秀人 (一問一答方式)	1. 地域活性化について	(1) 地域おこし協力隊について	①地域活性化において地域おこし協力隊の存在も大きいものがあるが、採用後具体的な取り組み等があったのか伺いたい。 ②他市においてはもっと多くの協力隊を採用しているところもあるが、本市としての今後の取り組みの考え方をお聞かせいただきたい。	
			(2) 地域の衰退について	①旧市、町当時、立ち上げた NPO 組織も高齢化が目立ち始め、組織維持も難しくなってきた状況はあるが、市はどのような認識を持ち、また、新たなる地域活性化を考えているのか伺いたい。	
		2. 空き家対策について	(1) 平成 28 年方針決定した燕市空家対策計画後、どのような変化があったのか	①対策後、空き家件数等の増減はどのような状況なのか。また、今後の把握はどのように行っていくのか。 ②空き家バンクの登録件数と、利用して成約した件数と、内容はどのようなものなのか伺いたい。 ③空き家相談会での相談件数と、どのような相談内容が多く寄せられているのか伺いたい。 ④住民からの苦情等のある緊急性のある物件及び所有者不明等の物件の数はどれくらいあり、今後当局はどのように対応したいと考えているのか伺いたい。	
5	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 市長の政治・政策について	(1) 市長の 2 期目も後少し、今まで出来たこと出来なかったこと	①市長の政治・政策 2 期目もあと少しの期間になり、ハード面・ソフト面、今まで市政を担って、短期、長期に渡ってどうだったのか市長の想いを伺います。	
			2. 児童生徒の教育をとりまく課題について	(1) 高校の特色化について	①「燕市内の県立高校の特色化に関する提案書」を提出したが、県教育委員会の反応や動きについて伺います。 ②今後の具体的動きはあるのか伺います。
				(2) 不登校対策について(総務文教常任委員会行政視察を受けて)	①不登校児童生徒の実態について伺います。 ②不登校児童生徒への対応状況について伺います。 ③不登校対応の人的配置の充実について伺います。 ④養護教諭の多忙化とその補助員の任用について伺います。
			(3) 学力向上について	①全国学力調査の結果を受けた児童生徒の学力実態について伺います。 ②結果を踏まえた今後の学力向上対策について伺います。 ③学力向上対策に読書の推奨が必要と考えるが、児童生徒の読書の現状はどうか伺います。	
		3. 萬盛橋について	(1) 萬盛橋の今後について	①萬盛橋は熊森地域にあって信濃川本流に架けてある橋であり、朝の時間帯などは交通量も多いとのことや、総重量 6 トン未満の車しか通行できないため、旧分水町時代から架け替えの要望等があったのですが、その後どうなのか伺います。 ②新生燕市になり萬盛橋を新たに違う場所に架けてもらい、たとえば前市長のときには、小池の工業団地から栄パークのインター(三条側との話も必要)との道路に合わせるのであれば、それに合う場所での架け替えがよいのではないかという話もあったのではないかと思います、その後どうなったのか伺います。	

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	小林由明 (一問一答方式)	1. 空き地空き家とこれからのまちづくりについて	(1) 空き地空き家問題について	<p>①ここ数年注力している空き地空き家問題について、これまでの主な取り組みとその成果、そして、市内の空き地空き家問題の現状と今後の取り組みについて、市の考えを伺いたい。</p> <p>②空き地空き家の増加に伴い、管理不全不動産が増える中、それが招く外部不経済が、まちの成長や地域住民の安全安心に大きな影響を与えている。</p> <p>一方、空き地空き家は社会的資源とも言え、その活用や流通については、市による直接的な利用も含めさらに積極的に促進していくべきと考えているがいかがか。</p>
			(2) 空き地空き家の活用や流通の促進について	<p>①空き地空き家の増える今、市街地におけるポケットパークの整備など、防災や減災、そして空間的な豊かさや景観等を考慮した都市環境の構築に取り組むべきではないか。</p> <p>②空き地や空き家問題と起業創業の取り組みを結びつけ、未利用店舗活用等に対する商工関係の助成等を見直し、空き地空き家でも助成制度が利用できるよう改正すべきではないか。</p> <p>③民間事業者とともに、リノベーションやDIY、不動産に関する法や資産運用などの知識普及を行い、適正な不動産管理や、資産としての利活用に努める機運を高め、また、不動産の流通が促進されるよう、更なる工夫を講じていくべきではないか。</p>
7	堀勝重 (一問一答方式)	1. 安心安全なまちづくりについて	(1) 中ノ口川の洪水対策について	<p>河川区域内の樹木は洪水時に流れを阻害し、河川の氾濫要因の一つであると言われております。</p> <p>①市内を流れる中ノ口川の河川区域内の樹木の現状について伺う。</p> <p>②それらの樹木の対応は現在どうなっているのか伺う。</p> <p>③中ノ口川河川区域内の樹木伐採について、市の所見を伺う。</p>
		2. ものづくり産業について	(1) 職人の技術の伝承について	<p>「ものづくり産業の更なる活性化」を図るため、平成29年度当初予算においてもさまざまな取り組みがなされているところでありますが、燕市の産業は、鎚起銅器、キセル、ヤスリ、洋食器、ハウスウエア製品など、鎚起、彫金、磨き、へら絞り、目立て等々、さまざまな職人による職人技の下で造られ、発展してきたものではないかと捉えております。ものづくりのまち燕市として、職人技を伝承していくことはとても重要なことではないかと思っています。そこで</p> <p>①さまざまな職人がおられますが、その中で「へら絞り」について、市の認識について伺う。</p> <p>②へら絞りをはじめ、さまざまな職人の現状把握について所見を伺う。</p> <p>③金属製品の製造において、へら絞り職人をはじめ職人と言われる方々は重要な役割を担っている中、減少傾向にあると聞いております。磨き職人と同様に、今後、必要に応じ、へら絞り職人をはじめ、さまざまな職人の担い手の育成が必要ではないかと思うが、市の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)	
7	堀 勝重 (一問一答方式)	3. 観光の振興について	(1) 道の駅について	<p>① 当市において観光施設としての利便性・情報発信機能を高めるために改修工事を行い、道の駅「国上」が、平成29年4月1日にグランドオープンし、指定管理者により運営されているところであります。 現在、具体的にどのようなことをされ、運営がなされているのか、あらためて伺います。</p> <p>② 平成29年度における現在までの収支状況について伺います。</p> <p>③ 今後の更なる活性化や発展につなげていくための取り組み等について、市の考えを伺います。</p>	
8	埴 豊 (一問一答方式)	1. 燕市の財政状態について	(1) 平成28年度決算の認識について	<p>① 地方交付税等の減少について △395,000千円＋臨時財政対策△294,000千円と、合併算定替△63,000千円、さらに配当割株式譲渡、地方消費税交付金を合わせて△220,000千円の示すものは。</p> <p>② 実質単年度収支が平成27年度まで黒字推移から△1,428,575千円と大きく割れたこと、さらに、財政調整基金が4,074,000千円から3,338,000千円と大きく減少したことについて。</p>	
			(2) 平成29年度の普通交付税確定の現状について	① 平成29年度半分を経過して今年度の事業見通しについて(国の補助金、負担金等の見通しを含めて)	
			(3) 平成30年度以降の見通しについて	① 合併算定替えの見通しと、公債費償還(主に合併特例債)状況がさらに増加の一途をたどる民生費の状況を踏まえ、これまでの財政見通しと比較してどのように変化していくのか考えを聞きたい。	
		2. 燕市の観光施策について	(1) 幅広い観光施策への取り組みについて	<p>① 着地型観光を強調するあまり、他の観光資源の掘り起しが不足しているのではないかと。国上山を中心とした雪割草、カタクリ等の山野草の群落は、駐車場からの距離も近く、老若男女だれもが気軽に観察できるものであり、国上山、弥彦山、角田山が連なる山々は、自然の恵みがいっぱいの観光資源ではないかと。</p> <p>② 燕市のふるさと納税返礼品の中で人気は米である。しかし、燕市内の道の駅や地場産、燕三条駅では、農協に発注する20kg袋、30kg袋のお米はあるが、別に特裁米、減減50等を消費者の目の前で、200～300gの米を量り売りすることはできないのか。</p>	
			3. 国民健康保険について	(1) 現状について	<p>① 一昨年度(平成27年度)、一気に加速した療養給付費の増大、一般財源からの2億円の投入、さらに国保税の大幅アップでの対応。一方、平成28年度決算を見れば、保険給付費の大幅減により実質収支538,000千円となり、収支は改善されたといえる。 しかし、一方では国保加入者の減少は平成28年度1000人余りであった。今後の予測と傾向について聞くとともに、疾病の重症化やインフルエンザ等の要因により、保険給付が大きく左右されかねないと思えるが、当局の考えを聞きたい。</p>
				(2) 今後について	① 今後さらなる人口減(国保関係)や、新しい医療等保険給付を大きくゆれ動かす要素がある中、平成28年度、平成29年度で見込まれる財源をしっかりと確保すべきと思えるが考えを聞きたい。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 燕・三条 JC の「県央中核市」を目指す「新燕三条 JC 宣言」のこと	<p>① 5月31日の新潟日報の紙面によれば、燕三条 JC は4月の発足20周年式典で「『県央中核市』誕生を目指し燕三条市実現に向けて運動する」とした内容の「新燕三条 JC 宣言」を発表した。</p> <p>それに対して燕市長は6月30日の定例記者会見で「直ちに合併に向けて何か行動を取ることは考えていない」と慎重な姿勢を示した。その理由として「かつて燕市が三条市などとの合併協議会から住民投票を経て離脱し、旧吉田、分水両町と合併した」ことを挙げられていたが、その他に慎重な姿勢を取る理由はあるのか伺う。</p> <p>② やはり8月3日の新潟日報の紙面には、JCの理事長へのインタビュー記事が載っていたが、その紙面の大見出しに「人口減対策に合併必要」とある。人口減少は全国規模の問題であり、燕や三条も確実に人口は減っていく中で、合併したからといってそれがどうなるものでもないと思うが、市長はどう考えられているのか伺う。</p> <p>③ 同記事の中見出しに「観光や産業、発信力向上も」とあるが、発信の件数で言えば燕、三条それぞれが発信している現在の方が単純に倍の件数になっている訳であり、この点について市長はどう思われるのか伺う。</p> <p>④ 同記事の質問の中に「気質の違い」を聞いている箇所がある。いわゆる、三条もん、燕もん、この違いこそこれからのまちづくりの核になる大事なところで、合併によってその違いが薄まったり、中和されたりする可能性が高まることになる危惧を抱いているが、市長の見解を伺う。</p> <p>⑤ 同項目の質問に答えた最後の部分「新宣言をまちづくりについて語り合うきっかけにもしたい」このきっかけにもしたい、の「も」ということについては私も異論はない。市長はどう受け止めておられるのか伺う。</p>
		2. 水道事業について	(1) 燕市水道事業基本計画における浄水場施設再構築事業の総事業費のこと	<p>① 事業費総額約176億円(概算)はどのようにして算出されたのか伺う。</p> <p>② この概算事業費における浄水施設工事費93.4億円、配水施設工事費23.5億円、合計すると116.9億円、総事業費に占める割合は66.4%になる。この中で建設資材費の占める割合を伺う。</p> <p>③ 基本計画から供用開始まで足かけ10年に及ぶが、その間の建設資材の変動をどう考えているのか伺う。</p>
10	渡邊 雄三 (一問一答方式)	1. 観光振興について	(1) 2020年オリンピック、パラリンピック東京開催に向けて、今後の対応策について	<p>① 訪日外国人観光客の集客、受け入れ体制について国は、2020年のオリンピック、パラリンピック東京開催の観衆を4000万人の観光客を目標に掲げ施策を講じているが、市としてこの海外誘客の好機をどのように捉え対応していくのか、目標と今後の施策の方向性を伺う。</p> <p>② 案内看板等の外国語表記を増やしていくなどの考えや、外国語表記のパンフレットなどの発行、活用をどのように考えているのか伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	渡邊雄三 (一問一答方式)	1. 観光振興について	(2) 観光イベントのアピールについて	①観光イベントの成功に向けてポスターの掲示、パンフレット作成、活用も大事な施策であるが、市職員がイベント成功に向けて服装など統一した一体感をアピールし、市役所を訪れる市内外の市民にお見せすることもイベントを盛り上げる効果があると思うが市の考えを伺う。
		2. 障がい福祉について	(1) 手話の理解普及・取り組みについて	①手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解や普及、共生社会の観点から手話を使用しやすい環境整備について考えを伺う。 ②手話言語条例制定について考えを伺う。 ③聴覚に障がいのある方が来庁したとき、対応力向上のため職員向けに研修を実施する自治体が増えているが、本市の取り組みについての考えを伺う。 ④災害時避難所に聴覚に障がいがある方が避難されたときの対応についてはどのようにされていくのか。また、防災リーダー等、避難所運営にかかわる方に研修会等を実施することで、障がいのある方たちは安心すると思うが考えを伺う。 ⑤児童・生徒への障がい理解教育の取り組みの中で、手話教育を取り入れてはどうか考えを伺う。
		3. 空き家対策について	(1) 空き家バンクについて	①近年の空き家の戸数と空き家率について伺う。 ②近年の空き家バンクへの登録件数とマッチングした件数を伺う。 ③国土交通省では、空き家・空き地の所有者と利用希望者をインターネットでマッチングさせる自治体運営の「空き家・空き地バンク」を集約し、全国版のサイトがスタートします。利用希望者が全国の物件をワンストップで検索できるようにし、条件に見合った入居先を見つけやすくする仕組みが始まります。この事業に対して市の対応について伺う。
		4. 市民協働のまちづくりについて	(1) 広報紙の役割について	①住民と行政とが双方向にメッセージを伝え合い、情報を共有する場を提供する手段の一つが広報紙の役割と思うが、「みんなの掲示板」掲載基準はあるのかを伺う。
11	樋浦恵美 (一問一答方式)	1. 防災対策について	(1) 女性の視点を生かした防災対策について	①女性の視点を防災対策に生かすということは、子どもや高齢者など社会的弱者の視点を生かすことであり、地域の防災力向上につながると考えます。 いつ起こるかわからない地震などの災害に対し、平常時に地域の女性防災リーダーを養成し、いざというときに対応できる体制を作っておく必要があります。女性防災リーダーの養成について、市の考えを伺います。 ②女性の視点を防災対策に生かした「防災ブック」を作成している自治体があります。東京都狛江市では昨年4月、女性視点の防災冊子「今日からはじめる狛江防災」を作成しました。市民への防災に関する意識調査を基に、女性市民が編集したものです。「防災ブック」の作成について、市の考えを伺います。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	樋浦 恵美 (一問一答方式)	1. 防災対策について	(2) 食物アレルギー対応の備蓄について	①食物アレルギーの方に配慮した災害用の食品の備蓄はされているのか、市の現状について伺います。
		2. 食品ロス対策について	(1) 食品ロス削減に向けての取り組みについて	①昨年の6月定例会において、本来食べられるのに廃棄されてしまう食品ロス削減に向けての取り組みについて質問し、当局からは「ごみの減量化の観点から、先進自治体の事例を参考に検討してまいりたい」との答弁がありました。その後、どのような検討がされたのか伺います。
12	大岩 勉 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 燕市長は燕三条市の合併実現を考えているのか	①燕三条青年会議所(燕三条JC)は、燕三条市の誕生実現に向けた活動をされているが、燕市長にはどのような話が寄せられているのか。今後の対応を鑑みてどのような対応をされるのか伺う。 ②三条市の国定市長は、燕三条JCの進める燕市との合併を「思慮分別」することなく称賛されているが、燕市の鈴木市長も同様の考えなのか。「軽挑浮薄」な行動はされないと思うが考えを伺う。 ③旧燕市が市民を巻き込んだ住民投票までして、三条市との合併を否決し、当時の市長が方針転換された歴史は知っておられると思いますが、1市2町の合併後10年しかたっていない現在、「燕はひとつ」のスローガンを忘れることなく燕市政を考えているのか伺う。
			(2) 燕市内の電話の市外局番の統一を	①「燕はひとつ」の取り組みとして、電話の市外局番の統一を優先課題として取り組むべきと思うが考えを伺う。
			(3) 燕労災病院・県立吉田病院の今後について	①燕労災病院の今後の方向性は、新潟県ではどのような報告内容がなされているのか。県立吉田病院を燕市役所近隣に新設と陳情されましたが県の考えはどうだったのか伺う。 ②新潟県事業の県立武道館誘致の失敗、基幹病院の燕市側への誘致整備もことごとく失敗されてきたが、燕市民の医療体制を考慮し、政治生命をかけて取り組まれているのか伺う。 ③燕労災病院の今後跡地利用整備計画はされているのか。小千谷市の総合病院跡地整備利用計画を参考にすべきと思うが、先行計画は考えていないのか伺う。
		2. 燕市の遊休財産の整理と改修を	(1) 三王淵地内の旧燕市教職員住宅について	①竣工昭和58年3月19日、鉄筋3階建て造り12戸、現在は無人化しており、周りは草が伸び放題、放置自転車も7台。民間なら利用価値はあると思う。売却払い下げしたらと思うが見解を伺う。
			(2) 小中川児童館裏の倉庫について	①旧小中川農協の倉庫であり、以前は農協購買部として活用していたものである。屋根の「ぐし」の部分の痛みがすごく、瓦が落ちている状態であるが修理をするのか、それとも取り壊すのか当局の見解を伺う。
				(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	大岩 勉 (一問一答方式)	3. Uターン推進事業について	(1)同窓会に支援補助金制度を新設出来ないか	<p>①見附市では30歳を対象にした大同窓会に対して、市内外で暮らす同級生たちに新たな出会いや交流の場を通じて、故郷の良さを見直してもらおうと、2015年夏からスタートし、開催費の一部として20万円を補助して今回で3回目である。燕市も人口減対策の一環として考えてみたらどうか見解を伺う。</p> <p>②30歳は人生のターニングポイントを迎える年代で、生活基盤を作り始める時期であり、将来の生き方を考える契機にもなると思う。燕市を元気にする補助事業と思うが見解を伺う。</p>
13	山崎 雅男 (一問一答方式)	1. 都市計画・開発(吉田南土地区画整理事業・新潟中央青果西部支社改築、移設等)について	<p>(1)農振除外吉田南地区8.6%の予定地用途地域拡大事業について</p> <p>(2)燕市内民間開発取り組み状況について</p>	<p>①市民への情報共有を図るとともに、定期的に取り上げることにより着実な進捗を進めていくことを願っての都市計画は、計画なくして開発なしと思われるが、吉田南地区約8.6%の農地を農業振興地域から除外しての用途地域拡大に向けた取り組みの進捗状況について伺う。</p> <p>②吉田南地区用途地域拡大に伴い、土地区画整理事業完了までの期間と作業手順を伺う。</p> <p>①住居・商業・工業等種類の異なる土地利用が混在すると、互いに生活環境や業務の利便性に支障をきたすと思う。それぞれの土地利用に合った環境を保ち、効率的活動を行うことができる用途地域見直し、指定についての基本的な考え方について伺う。</p> <p>②燕市の用途地域指定の現況と土地利用状況について伺う。</p> <p>③都市計画は、土地利用の方針により、自治体が主体的に構築すべきものと思われるが、市域全体のバランスや周辺環境との調和を最優先に考慮して、方向性を決定されるべきことと思うが所見を伺う。</p> <p>④生活するに欠くことのできない食物の安定供給を大きな使命として、県内外の出荷団体から受託した農産物を仲卸業者や小売業者、県内外各地へ分荷・配送し、常に新鮮な商品を安定的にする生産者と消費者との架け橋である、(株)新印青果西部卸売市場、新潟中央青果(株)西部支社。 業者によると建築物が老朽化しており、改築に伴い現場所は考えてなく、喫緊に移設先を西部支社は希望しているが、用地確保に向けて市としてどのような民間開発の誘導等に協議され取り組まれているのか伺う。</p>
		2. 2級河川大通川・大通川放水路の保全管理について	(1)2級河川大通川・大通川放水路の維持管理上の課題について	<p>①2級河川大通川・大通川放水路等、近年河川改修の遅れにより田んぼダムを生産農家に推奨している。河川管理状態悪化の中で、生産農家に対して規制を求めることは理にかなわないが市としての認識を伺う。</p> <p>②大規模開発(1%以上)において、新潟県は調整池を義務付け許可している。設置後、その機能を果たしていないものも少なくないが所見を伺う。</p> <p>③2級河川大通川・大通川放水路雑木が繁茂して年毎に成長し、流水阻害を起こしている。また、毎年草刈りが遅く生産農家から害虫の発生源になると苦情が数限りなく多く寄せられ絶えないが、市としての認識と新潟県への対応策を伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	山崎 雅男 (一問一答方式)	3. 主要地方道燕・分水線の安全確保等について	(1) 主要地方道燕・分水線の歩行安全確保について	<p>① 主要地方道燕・分水線で、今日、野本地区は未改良で田中地区は暫定2車線を改良して道路事情が良くなり、村内の幹線道路は車の往来が増え、特に通勤時間帯になると交通量が多く死亡事故も発生し、大通川橋付近でも度々事故が発生している。40キロ速度制限や事故防止の看板設置で注意喚起を促してはいるが、交通事故の危険性が解消されているとは言い難い。</p> <p>児童・生徒である子供たちや交通弱者の安全確保等事故を未然に防ぐためには更なる施策が必要と思われるが、信号機等含め再度市の認識と取り組みを伺う。</p> <p>② 大通川橋の児童・生徒の通学路や交通弱者安全対策と歩道空間の安全確保について伺う。</p>
		4. 児童・生徒の通学路安全確保について	(1) 通学路における交通安全確保に向けた取り組みについて	<p>① 通学路の交通安全対策として、学校・家庭・地域・関係機関等が連携、協働しながら、合同点検の実施、対策の検討・実施・効果の把握等を通学路における交通安全確保に向けた取り組みを継続的に推進することにより児童・生徒・交通弱者の事故防止に努めることが大切かと思われるが、各市内小中学校通学路等における交通安全対策はどのように検証し実施されているのか伺う。</p>
14	土田 昇 (一問一答方式)	1. 子どもの貧困対策について	(1) 子どもの貧困で具体的な対応は	<p>① 今年の3月定例議会でこの問題について一般質問を行ったとき、担当部長の答弁で、児童扶養手当の現況届が法令に基づき毎年8月に受給者から市役所に持参していただいて、そのとき担当職員が内容を確認して、実態調査はこの現況届と一緒に丁寧な説明を付して実施することにより、単独の調査では得ることが難しいと思われる各世帯の具体的な生活実態や将来の不安などについてお聞きすることができるものと期待しておりますと答弁されているが、児童扶養手当の件数と、回収率はどのような状況であったか伺う。(具体的な内容についても伺う)</p> <p>② 新潟県の母子・父子福祉資金貸付金の貸付状況については平成27年度は、平成26年度に比べて貸付額は98,542千円減少し、貸付件数も127件減少しているが、市の状況はどのようなになっているか伺う。</p> <p>③ 新聞報道によれば、「子ども食堂」は新潟市内だけで11カ所、全県で20カ所開設されたと報道されたが、市として開設する考え方はどうか伺う。</p> <p>④ 市のひとり親家庭の状況はどうか伺う。(母子、父子の件数)</p>
		2. 新潟県地域医療構想及び燕市の医療について	(1) 県央構想区域の内容について	<p>① 医療資源の現状については、各病院とも常勤医師の不足、看護職員の不足が現状であり、医師等医療スタッフの確保が課題ですとしているが、新潟県立吉田病院改築に関する要望書で指摘しているが、重大な問題と思うが市は認識しているか伺う。</p> <p>② 居宅等における医療の充実の中でも訪問診療を実施する医師や看護師等医療スタッフが不足しているが、この点についても重大な問題と考えるが市の認識について伺う。</p>
			(2) 県立吉田病院について	<p>① 要望書については全面的に賛成であります。用地については市の責任が重大であると考えているがどうか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
14	土田 昇 (一問一答方式)	3. つぼみ保育園の今後について	(1) 地域住民の声と保護者の声は	<p>①大きな問題となったが、地域住民の声と保護者の声を大切にすべきと思うが考え方について伺う。</p> <p>②過去に指摘された問題はどのように解決されたのか、今後問題はないのか伺う。</p>
15	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 介護保険事業について	(1) 市民にとっての負担増と給付抑制の問題について	<p>①高齢化社会の進展の中、「介護の社会化」を求める世論を背景に、介護保険法が制定されてから20年である。市民にとっては、期待されて2000年4月からサービスの利用が始まったが、2005年のホテルコストの導入を初め、その後の「補足給付」の改定など、制度の見直しのたびに負担増、給付抑制のしくみが施されている。今年から来年にかけても、要支援1、2のデイサービスやホームヘルパー利用は給付除外に、高額介護サービス費の負担上限の引き上げが8月から始まり、現役並み所得者の利用料3割化も来年には課せられる。給付抑制や負担増が最初は一部の利用者、徐々に対象が広げられようとするのが実態ではないか。これでは「介護の社会化」の理念が投げ捨てられ、負担増による「介護の家族化」という、逆戻りの方に向かおうとしているという意見もあるが、認識を伺う。</p> <p>②介護保険料は当初との比較で大幅に引き上がり、そのために保険料の滞納を誘発させている側面もあるのではないか。滞納者の人数と滞納の理由、要介護の利用者が滞納した場合、利用制限というペナルティーがあるがその内容と実際に課された事例はあるのか伺う。</p>
		2. 福祉向上に資する地域の市民活動について	(1) 忠魂碑を守る活動について	<p>①アジアなどの諸国民と日本国民の莫大な犠牲の上に、アジア太平洋戦争が終結して72年である。戦後日本は「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにする」(憲法前文)と決意している。そんな中、市内各地域には、戦争犠牲者を追悼する忠魂碑や慰霊碑など所在し、その地域の遺族会やお寺の住職などが碑を維持管理する担い手として、長年に渡り役割を果たしている。これらの活動に、市としてどのような関わり方で支援を行っているのか伺う。</p> <p>②各地域の遺族会では会員の高齢化に伴い、長年継承している種々の活動において、将来的に支障をきたしていくのではないかとと思われるが、現在、市として、関係者からの困りごとや要望などがあるのか、把握されていることを伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
16	長井由喜雄(一問一答方式)	1. 電子母子手帳の導入について	(1) 手帳式母子手帳と並行して電子母子手帳の導入を	① 千葉県の柏市では平成 27 年度からスマートフォンやタブレットで利用する「電子親子手帳」を導入した。いまやスマートフォンは急速に拡大し、若い世代では圧倒的な広がりを見せている。妊娠期から交付される「母子手帳」を、現在の手帳式と並行してアプリケーションを使った電子式の母子手帳を導入してはどうか。
		2. 認知症高齢者と障害者手帳について	(1) 認知症高齢者は障害者手帳の申請が可能か	① 認知症高齢者及びそのご家族が、認知症の診断を受けた上で障害者手帳を申請し、手帳の交付を受けることで居住地の自治体のサービスを受けることができるようになったとの事例を聞く。しかしながら介護保険に携わる事業者やケアマネジャーなどでもこのことを知らない場合もあると聞くが、認知症高齢者は障害者手帳の申請が可能か伺う。また認知症高齢者に関わるケアマネジャーなどの理解について、保険者は把握しているか。 ② 認知症だけで申請された場合は、精神障害者保健福祉手帳交付の可否ということになると思うが、手帳が交付された場合はどのような福祉サービスを受けることが可能となるか伺う。
		3. 国民健康保険の都道府県化について	(1) 都道府県化についての認識について	① 都道府県単位化に伴い、何がどう変わり、また何が変わらないことになるのか。また、現在の準備状況はどのようなになっているか伺う。 ② 保険者として都道府県化の「メリット」「デメリット」をどのように認識しているか伺う。 ③ 「財政調整機能の強化」と「保険者努力支援制度」などの公費について、燕市はどのように考えるか。
		(2) 市民本位の国保制度となることを貫く姿勢について	① 国民健康保険は、国民皆保険制度の土台となるものであり、他の保険に加入している人たちもそのほとんどはいつかは国保加入となる。しかしながら現状は非正規労働者や年金者がほぼ 8 割を占め、加入者一人あたりの平均所得は 83 万円と、後期高齢者医療制度に振り分けられた高齢者と変わらない平均所得となっている。そして都道府県化は、「医療費適正化計画」による医療給付費の抑制や「地域医療構想」による病床削減と一体的に進めるところに本質があるのではないかと。市民の健康と生活など生存権を守る立場から、燕市の国民健康保険制度と現状についての認識を伺う。 ② 国保新聞によると、全国知事会が 7 月末に知事会議を開き、社会保障関係について重要な提案・要望を行った。市も同様の立場か伺う。	

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
17	タナカ・キン(一問一答方式)	1. 小学校のエアコン設置について	(1) 普通教室のエアコン設置について	<p>暑い日が続いた7月、地元紙に市民からこんな内容の投稿が掲載された。「燕市鈴木市長様、仲野教育長様。燕市内の小学校普通教室にエアコンを設置してほしいです。7月に入り連日猛暑日が続いています。先生方、子どもたちは教室に設置されている2台の扇風機からの熱風に耐え、毎日汗びっしょりで学校生活送っています…。」</p> <p>①この投稿の続きの中で「ある小学校からの嘆願書、校長会、教職員組合からの要望も『お金が無いから』と、すべて即却下したとのこと。」とありますが、これは事実なのでしょうか。</p> <p>②市内の小・中学校のエアコン設置状況について伺います。</p> <p>③仮に小学校の普通教室にエアコンを設置すると、総事業費はどれくらいになるか伺います。</p>
			(2) ふるさと納税寄付金の活用について	<p>①来年のふるさと納税寄付金を全額小学校のエアコン設置に充てると、使いみちをはっきりさせ発表する。注目されると思いますし、何より市外・県外の燕市出身の方なら、自分たちの母校のことであります。子どもたちの頑張っている姿を容易に想像できますし、ふるさと納税の寄付金が伸びることも期待できますが、どうでしょうか。</p>
		2. 道の駅「国上」について	(1) 物販等の売上について	<p>①平成29年度の指定管理料は2,400万円で、前年度との比較では482万3千円の減額となっている。施設はこの春までに、2億7,800万円をかけて、食堂の改修や「ふれあい交流センター」の冷暖房設備、事務所やトイレ、朝市コーナーと売店のワンフロア化をメインに改修され、4月1日にグランドオープンの式典を行っている。指定管理料の減額は、物販等の売上が伸びると見込んでのことと思う。では、指定管理料の算定における今年度の売上金額の見込みは前年比の何%だったのか伺う。</p> <p>②6月定例会で、物販と食堂の4、5月の売上金額は前年比の193%と答弁された。では、6、7月の売上金額は前年比の何%だったのか伺う。</p> <p>③物販の4月～7月までの売上金額は、前年比でそれぞれ何%だったのか伺う。</p> <p>④食堂の4月～7月までの売上金額は、それぞれ何%だったのか伺う。</p>
			(2) 施設内における展示方法や活用について	<p>①今も、正面入口に入って目の前が休憩所になっている。この場所が一番いいスペースだと思うが、休憩所である理由について伺う。</p> <p>②6月定例会で展示方法や活用を示しており、検討するという答弁を多くいただいた。検討はされたのか伺う。</p>
		3. おいらん道中について	(1) おいらん道中について	<p>①平成27年の6月定例会で、10月にAKB48の新潟版NGT48がスタートするが、おいらん役に出演してもらってはどうかと提案している。そのとき、いろんな課題等々があるが、その辺も含めた中で実行委員会のほうで検討するとの答弁があった。その後、検討はされたのか伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
18	山崎光男 (一問一答方式)	1. 近年の災害激甚化に即した、燕市の総合的な防災対策について	(1) 中越沖地震から10年、熊本地震も含めて考察する、災害に対する備えについて	<p>①内閣府防災担当は、災害への事前の備えとして、備蓄の確保を挙げている。地震や津波といった大規模災害に備え、各自治体は避難想定人数他から備蓄の計画を立てているが、燕市における、災害備蓄食料等の行政備蓄の種類や管理状況を含めた備蓄体制、発災時の配備方法について伺う。</p> <p>②熊本地震は、比較的地震が少ないといわれてきた所で起きたが、このようにいつどこで起こるか分からない災害多発時代を生き残るために、日頃から食料品や生活必需品を少し多めに備える「日常備蓄」が改めて見直されている。発災時にも自宅で当面生活することを可能にするこの日常備蓄を、燕市民にも推奨できないか、当局の考えを伺う。</p> <p>③国土交通省は、地震などの災害時に快適なトイレ環境を確保し、被災者の健康を守るため、マンホールに設置して使う「マンホールトイレ」の整備・運用のためのガイドラインを策定した。東日本大震災では、宮城県の避難所に設置され、衛生的に優れていることから被災者から大変好評であった。今年度新潟市中央区に5基設置する予定であるが、本市でも設置できないか伺う。</p>
			(2) 羽越水害から50年、九州北部豪雨も含めて考察する、水害対策と防災教育について	<p>①燕市では大雨により、7月に3回災害対策本部を設置し、うち2回は7つの地域に避難情報（3日は避難準備・高齢者等避難開始情報、18日は避難勧告）が発令され、避難所も開設された。これらを踏まえ、豪雨災害に対する今後の課題や改善点、取り組みについて当局の考えを伺う。</p> <p>②羽越水害から50年の節目を控えた村上市の小学校では、防災教育により力を入れ、総合学習で水害について学び始めた。このように、年間の学校行事や指導計画に防災教育を組み込む「防災教育の自校化」が、全国の小中学校で進んでいる。燕市でもこのような取り組みが実践できないか伺う。</p>
			(3) 分水大火から60年、糸魚川大火も含めて考察する、災害とSNSの関連について	<p>①昨年発生した糸魚川大火では、鎮火の際 Twitter でも情報が発信された。災害時の情報伝達手段はいろいろあるが、近年、Twitterを始めとしたSNSが注目され、多くの自治体で活用されている。燕市にも公式のTwitterがあり、7月の大雨の際には緊急情報を配信したが、災害時におけるSNSの活用について、当局の考えを伺う。</p> <p>②スマートフォンの普及により、官公庁や企業・自治体が提供する、災害時に役立つ防災アプリが多く存在する。新潟市では安全に、素早く避難するために、避難所の方向や災害時の危険場所が分かるさまざまなハザードマップを表示するアプリ「にいがた防災アプリ」を無料ダウンロード配信している。燕市でもこのようなアプリをサービスできないか伺う。</p>